

# 1 市場動向の概要と対策

## (1) 野菜

全体の動向と見通し

3月と4月の実績

区分 品目	3月の取扱実績(計)				4月の旬別取扱実績							
					上旬				中旬			
	入荷量 (t)	前年比 (%)	単価 (円/kg)	前年比 (%)	入荷量 (t)	前年比 (%)	単価 (円/kg)	前年比 (%)	入荷量 (t)	前年比 (%)	単価 (円/kg)	前年比 (%)
総数	151,306	100.7	212	95.4	48,204	98.8	212	102.3	53,921	98.2	181	95.0
だいこん	16,577	108.2	95	96.5	5,292	104.2	83	91.8	5,603	97.1	64	107.0
にんじん	8,288	95.1	104	79.6	2,429	86.5	160	94.9	2,720	87.3	157	95.4
はくさい	8,358	83.5	124	264.6	2,235	96.4	124	343.2	2,277	86.6	69	265.9
キャベツ類	17,796	104.5	112	102.6	5,526	96.6	118	109.4	6,395	95.8	81	98.3
ほうれん草	2,553	120.7	272	80.5	517	84.1	471	146.1	615	94.2	334	103.1
ねぎ	5,062	103.7	164	75.3	1,533	112.3	187	95.0	1,457	94.0	135	71.3
レタス類	9,393	126.0	190	70.2	2,692	105.4	145	84.4	3,190	123.3	98	65.8
きゅうり	7,478	100.7	269	101.9	2,603	98.5	244	128.0	3,049	110.3	153	79.2
なす	2,615	76.0	406	103.3	1,085	74.2	319	98.6	1,348	90.8	254	85.9
トマト	7,057	94.9	389	129.0	2,269	79.8	372	123.3	3,162	100.5	318	114.4
ミニトマト	885	79.6	610	123.5	316	79.8	535	130.6	342	86.8	547	118.7
にら	1,207	102.0	318	69.8	318	83.0	271	98.4	360	93.7	274	97.7
えだまめ	109	157.4	443	60.6	52	130.1	491	67.5	56	100.3	579	86.2
生しいたけ	1,340	108.2	451	70.7	361	100.9	576	116.7	325	93.3	520	95.7

### 概況

4月の野菜類は、冬場は西南暖地ものが主力だが、いよいよ関東平野の春野菜の移行期となる。今年は、冬期寒波が強かったことによって全般的に春ものが出遅れ、月前半を中心に前年の価格を上回るキロ当たり200円強を維持。

とくに、トマト、きゅうりなどの果菜類をはじめ、こまつな、ほうれんそうなどの小葉もの類が堅調な動きとなった。

しかし、後半になった初夏を思わせるような気温の上昇とともに値を下げるものが多い。だいこん、キャベツ、レタス、ねぎなど大型露地野菜の盛期を迎えて下降線をたどり、1日当たり取扱高は、前年並の入荷、前年並のキロ当たり200円程度の苦戦におちいった。

やはり、底流には消費不況と輸入外圧が重くのしかかっているようである。

## (5月の見通し)

品目	区分	入荷量 (t)			キロ当たり単価 (円)			山形県産実績	
		前年実績	前年比 (%)	5カ年平均	前年実績	前年比 (%)	5カ年平均	前年入荷量	前年占有率 (%)
だいこん		12,632	95	12,037	60	112	91	8	0.1
にんじん		10,233	95	9,201	110	108	196	-	-
はくさい		7,305	90	6,850	29	140	67	-	-
キャベツ類		19,784	95	17,934	51	120	97	-	-
ほうれん草		1,723	102	1,753	385	95	468	6	0.4
ねぎ		4,298	100	4,115	261	90	292	6	0.1
レタス類		8,441	95	8,085	108	125	161	-	-
きゅうり		10,162	95	9,623	173	100	201	31	0.3
なす		5,054	95	4,676	270	102	345	-	-
トマト		12,330	95	10,545	207	110	281	19	0.2
ミニトマト		1,519	95	1,267	334	120	461	-	-
にら		1,043	100	1,084	236	100	257	24	2.3
えだまめ		13,128	95	12,865	137	105	149	-	-
生しいたけ		859	95	770	680	110	888	6	0.7
食用菊		14	100	14	1,519	100	1,468	7	47.6

## 概況

5月の野菜類は、関東ものが盛期を迎える一方で、品目によっては東北、高原ものも増量をしめす頃である。

昨年は、全般的に作柄が順調だったために、価格は主要品目の供給量を支えきれずに低迷を余儀なくされた。とくに、だいこん、にんじんの根菜類、はくさい、キャベツなど結球野菜類、ばれいしょ、たまねぎの土物類、ピーマン、トマト、なす類も軒なみ連休明け以降、暴落状態を演じていった。

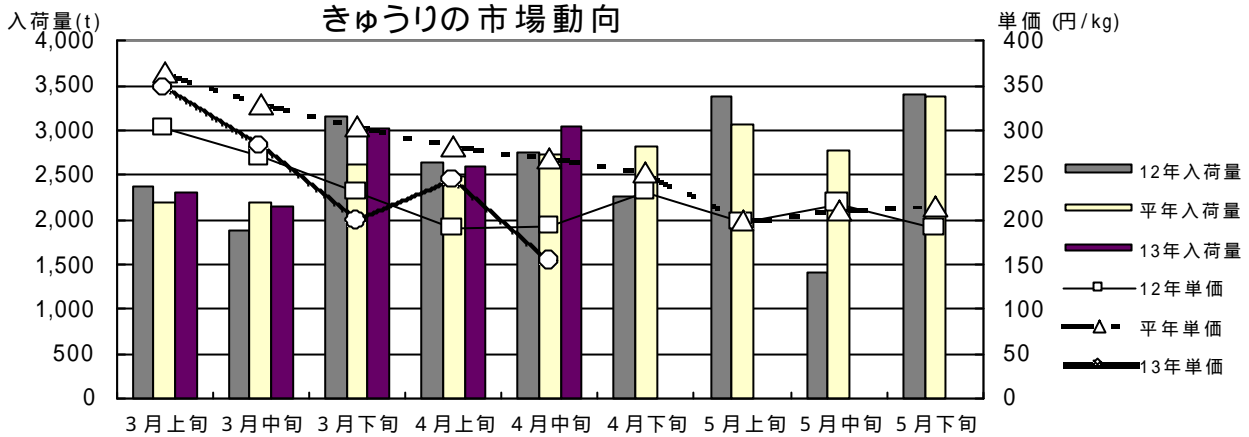
このように、前年の入荷が過去3年来増品目が多かったのに対し、今年は作付面積減の品目や、産地間作柄の格差が見られ、軒なみ前年の入荷を下回る見通しで、波乱含みながら前年を上回る市況となりそう。

しかし、5カ年の平均価格と比較すれば、大変厳しい価格であることから、選別強化、品傷み防止など、万全な商品強化策が市場側から望まれている。

# きゅうり

## (1) 4月の販売状況

上旬	入荷量： 2,603 t (前年比 98 )	価格： 244円/ kg (前年比 128 )
中旬	入荷量： 3,049 t (前年比 110 )	価格： 153円/ kg (前年比 79 )



春きゅうりの候となって、主産地は埼玉、群馬、千葉、茨城及び栃木など、関東の施設もの中心の出回りをしめた。

したがって、これら産地が入荷や市況をリードし、4月総体としては前年比98～110%程度の入荷。価格はキロ当たり150～250円の幅。200円強に落ちついて前年並となった。

きゅうりの場合は、天候変化により入荷の増減が大きい品目で、とくに中旬に入荷増となったことから、市況の中だるみ現象を形成したのが特徴。

サラダシーズンとあって、需要も旺盛で野菜全体が低調な中で、まずまずの動きとなった。

東京都中央卸売市場扱い。

平年は平成8年から12年までの平均値。平年単価は5カ年単価の単純平均。

## (2) 5月の見通し — たっぷり食べて、初夏のおいしさ。堅調予想 —

<b>入荷量</b>	<b>価格</b>	<b>旬別相場予想推移</b>
9,857 t 前年比 97% 平年比 102%	180円/ kg 前年比 104% 平年比 90%	上旬     ➡ 中旬     ➡ 下旬     ➡

関東産春ものの最盛期の一方、福島など東北地方も出荷開始。後半やや入荷増か。関東産は全体的に草勢や側枝の発育がやや停滞気味。適切な管理が望まれる。

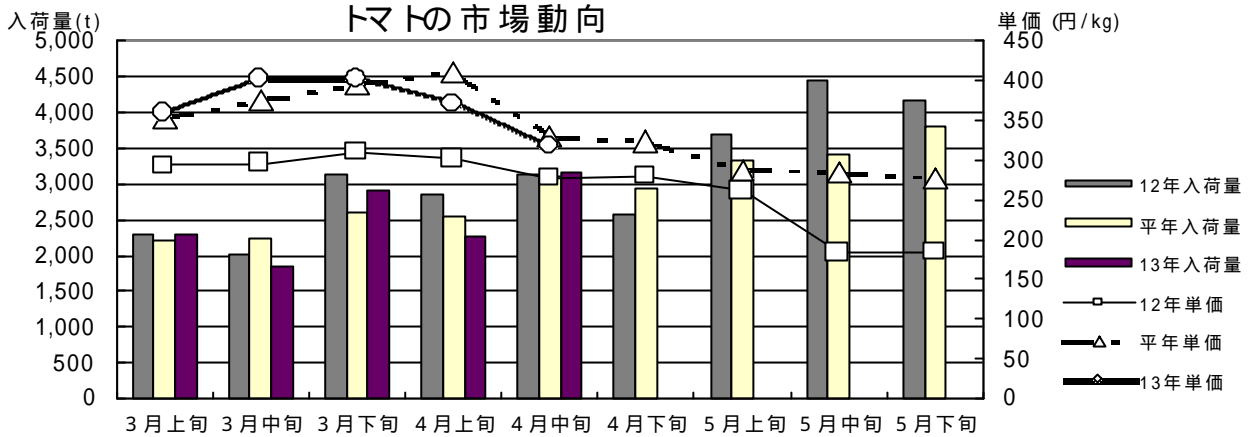
出荷面では、やはり新鮮と歯ざわり感をアピールするため、朝どり励行、色つやを大切にしたい。また、丁寧なあつかいで、イボイボを落とさぬように選別を注意したい。

主な生産県の入荷見込み (5月)				作柄概況
県名	前年 入荷量 (t)	前年シェア (%)	前年比入荷 見込 (%)	
埼玉県	3,937	39%	95%	天候が良く生育は順調で、冬場の生育の遅れからは回復した。収穫作業も安定して進んでいることから、出荷量は多かった前年を下回るものの平年並みとなる見込みである。
群馬県	2,597	26%	98%	作柄は回復基調であるが、冬期の低温により根張りが悪く、成り疲れから樹勢の低下が見られる。そのため入荷は前年度をやや下回ると見込まれる。
千葉県	1,086	11%	92%	越冬栽培は終盤に向かうが草勢は弱い状態が続いている。品質はつる下げ方式の導入を進めているため、短形果の出荷量は前年より少なくなる。全体の出荷量は前年をかなり下回る見込み。

# トマト

## (1) 4月の販売状況

上旬	入荷量： 2,269 t (前年比 80 )	価格： 372円/ kg (前年比 123 )
中旬	入荷量： 3,162 t (前年比 100 )	価格： 318円/ kg (前年比 114 )



4月の野菜の中で、売り上げNo. 1をほこる人気品目である。  
 愛知、熊本など、冬場に主力になった産地の残量と、栃木、千葉、茨城、群馬、埼玉、愛知、熊本など関東各地が激しく競合する。  
 やはり、サラダタイプだけに需要期。しかし、3月頃までの低温、日照不足等で小玉傾向となり、前年と対照的に入荷は前年比9割前後。価格1～2割高と堅調な動きとなった。  
 トマトは、完熟桃太郎時代となって食味が向上しているが、産地間格差や品質格差で価格差が拡大している。

東京都中央卸売市場扱い。

平年は平成8年から12年までの平均値。平年単価は5カ年単価の単純平均。

## (2) 5月の見通し

### 彩り豊かな季節を楽しみ、前年比1～2割高

<b>入荷量</b> 11,100 t 前年比 90% 平年比 105%	<b>価格</b> 250円/ kg 前年比 121% 平年比 89%	<b>旬別相場予想推移</b> 上旬 → 中旬 → 下旬 →
---	--	---

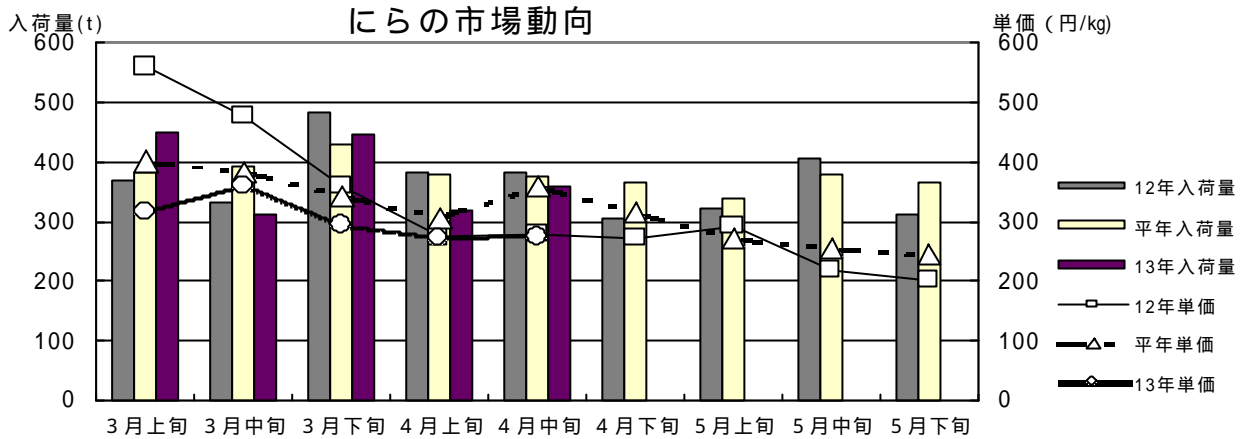
4月に引き続き、5月もやはり野菜のなかのNo. 1の扱い金額となる。  
 関東産の盛期で、上記3県が入荷量の50%を占め市況をリードする。  
 作柄は、一部小玉傾向も散見され、入荷量の多かった前年よりは下回る見込み。したがって、市況は時期的に、やや軟調気配もあるが、急落はない模様で、月総体では堅調な動きとなろう。  
 そろそろ気温上昇期でもあり、軟果玉に注意。これは棚もちの点で小売店に嫌われる。糖度は5.5～6.5度ぐらい。栃木ものに負けないものを出荷したい。

主な生産県の入荷見込み (5月)				作柄概況
県名	前年 入荷量 (t)	前年シェア (%)	前年比入荷 見込 (%)	
千葉県	2,367	19%	82%	生育は弱く延滞気味に推移しており、特に3月中旬の着果が良くなく空洞果など下位等級品の発生が懸念される。しかしながら、天候の回復により肥大は進みつつある。出荷量は多かった前年を大幅に下回る見込み。
栃木県	2,212	18%	102%	生育は平年並に回復してきている現在4～5花房の収穫期となっており、玉の肥大も回復してきている。(糖度5.5～6.5度)
茨城県	1,628	13%	100%	生育は概ね順調。現在2～3段収穫中。品質はやや小玉傾向で、乱形果もみられる。また5段以降乱形果が多い模様。入荷は平年並。

# に ら

## (1) 4月の販売状況

上旬	入荷量：	318 t (前年比 83 )	価格：	271円/ kg (前年比 99 )
中旬	入荷量：	360 t (前年比 94 )	価格：	274円/ kg (前年比 98 )



にらは、1年を通してほぼ同じ量がコンスタントに入荷する品目で、全国的に栽培されるが、主産県は栃木、茨城、千葉の3県で、いずれの県も周年出荷体系をとっている。

4月の入荷は栃木、茨城、千葉を主力に、高知産は終盤の出荷。

ことは前年比1割程度の入荷ながら、価格は100g1束27円程度と前年並。やはり30円台には乗せたい気持ちだ。時期的には産地ごとの価格差も拡大期。

冬場の需要は旺盛だが、気温上昇で気は少し弱まってくるので、健康野菜をもっとPRしたいところ。

東京都中央卸売市場扱い。

平年は平成8年から12年までの平均値。平年単価は5カ年単価の単純平均。

## (2) 5月の見通し

### スタミナ野菜で健康増進 1割高にできるか

入荷量	価格
1,000 t	250円/ kg
前年比 96%	前年比 106%
平年比 92%	平年比 97%

関東中心の出回りだが、東北、北海道からも一部入荷。

昨年は他野菜の軒並み低迷の影響がでて、数年来の安値だっただけに、今年は平年価格に回復が期待される。

葉色、葉幅をそろえて、変色に注意。

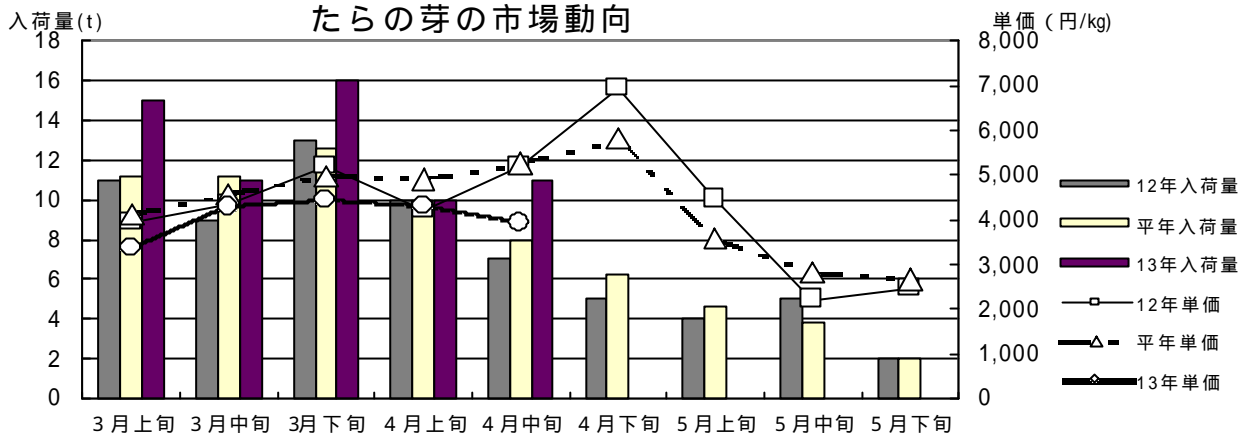
何といても、固定客づくりには計画出荷、継続出荷、安定供給が必要。出荷量の拡大が望まれる。

主な生産県の入荷見込み ( 5月 )				作柄概況
県名	前年 入荷量 (t)	前年シェア (%)	前年比入荷 見込 (%)	
栃木県	361	35%	98%	生育は平年並に回復してきている。品質は4～5番刈りが中心であるが、葉色・葉幅にややバラツキが散見される。
茨城県	259	25%	95%	昨年の天候不順で、根株充実不足見られるが回復中。
千葉県	139	13%	95%	秋の長雨、日照不足等で、葉の発生量がやや少なかったが、回復中。

# たらの芽

## (1) 4月の販売状況

上旬	入荷量：	10 t (前年比 100 )	価格：	4301円/ kg (前年比 102 )
中旬	入荷量：	11 t (前年比 157 )	価格：	3920円/ kg (前年比 76 )



たらの芽は、「山菜の王様」と言われるくらい食味のよいものとして知られている。これら根強い需要の背景として、栽培ものは年末12月頃から入荷がはじまって、2月から3月まで盛りとなり、自然ものは4月後半から5月前半がピークとなる。山菜類は「春」の季節感を楽しむということで一般家庭でも消費が増えている。

4月下旬の価格は、50gパック入れ2L(4~5本入り)で200円、同L(6~7本)250円、同M(8~9本)220円、同S(12~13本)130円程度で推移。

月総体としては、前年の3割増の30台。価格はキロ当たり4,200円前後の2割安程度。やはり消費不況の影響がかいま見られる。

東京都中央卸売市場扱い。  
 平年は平成8年から12年までの平均値。平年単価は5カ年単価の単純平均。

## (2) 5月の見通し

<b>春の使者 本県産は終盤へ</b>	
<b>入荷量</b> 11 t 前年比 100%	<b>価格</b> 3000円/ kg 前年比 9%

4月のたらの芽は鹿児島から北海道まで全国18都道県ほどの入荷があり、近年では中国産の輸入が増えて競合激化だが、5月は時期的に関東から北海道までとなる。

4月5月を問わず東北地方の市場評価は高く、山形産たらの芽の評価も比較的高い。参考のため、昨年5月の東京市場単価(円/kg)をみると、全体平均3,091円、最高値が山形産で4,897円、最底が東京産の2,230円となっている。

しかし、競争激化の時代、市場側の意見に耳を傾けてほしい。それは、

- 個人個人の選別格差の是正が必要。
- 気温上昇期になるため、品傷み防止に工夫。とくに「がく」部の変色、芽の変色などは出荷時に判断できるので、目揃い会などでの注意が必要。
- JAシステムによる共販、計画出荷を推進。
- などして、名実ともに日本一を勝ちとってほしい。